

別紙-2 図書館情報システム機能要件

項目	No	機能説明
インフラ	1	クラウドサービスを運用するデータセンターにおいては、情報セキュリティマネジメントシステム規格「ISO/IEC27001」クラウドサービスセキュリティ規格「ISO/IEC27017」、政府情報セキュリティ評価「ISMAP」認証を取得していること。
	2	クライアントOSはWindows11以降であること。
	3	利用者公開システムはOS/Androidに対応したシステムであること。
	4	図書館システムの各業務は最新のMicrosoft Edge(IEモード)またはGoogleChrome上で動作可能であること。
セキュリティ	1	図書館システムは、セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン (applet) やクライアントで動作する仕組み (JWS) などではないこと。
	2	図書館システムは、Microsoft Edge(IEモード)またはGoogleChromeのみをアップデートすれば、セキュリティ対策が実施できる仕組みとすること。
	3	メール送信機能は、セキュリティに配慮し、SMTP-AUTH、SMTPSに対応していること。
	4	ログイン時、及び、貸出/返却/予約や、利用者登録/検索等、意図的に利用者情報を参照する機能を使用時、自動的にアクセス記録の保存ができること。
	5	以下のアクセス情報が保存できること。 (アクセス日/時刻、アクセス館/IPアドレス/オペレータID、アクセスした業務、アクセスされた利用者番号)
	6	保存されたアクセス記録を帳票印刷できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞込み印刷ができること。
	7	保存されたアクセス記録をCSV形式にデータ出力できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞込みデータ出力もできること。
	8	特定の利用者情報を扱う帳票印刷やデータ出力時に、パスワード認証(入力チェック)ができること。
	9	利用者及びオペレータのログイン時に複数の異なる認証要件を要求することにより、セキュリティレベルを高めることができること。(多要素認証対応)
	10	入力項目で複数エラーが発生した場合は、どの入力項目がエラーなのか一目で分かるように注意表示による強調表示ができること。
	11	日付項目はカレンダーからの入力ができること。
	12	カレンダー上にて図書館の休館日を確認できること。
	13	コード項目はプルダウンからの選択が可能なこと。
	14	プルダウンに表示される順番は入れ替えができること。
	15	各種確認画面でのYes/No選択を、バーコード走査でできること。
	16	各関連業務内の処理画面(窓口業務内の貸出、返却等)の個々の展開はホーム画面に戻らなくてもできること。
	17	業務画面は、画面サイズを任意に変更可能なこと。
	18	画面で表示する各種一覧は、選択された明細または特定の項目に関し、コピー & ペーストが可能なこと。
	19	表示中画面から全てその他画面へ切り替えが可能なこと (例: 貸出⇒書誌登録)
	20	図書館システムの障害時、機能追加時におけるプログラムの入れ替えはサーバのみで対応可能でありクライアント毎の入れ替えは不要であること。
	21	図書館システムは、オプションなどを追加することによりライトカード、IC機器などの外部接続に対応できること。
その他	1	図書館業務メニューから、他関連Webサイト(県立図書館等)を表示できること。また、Webサイトのリンクは任意に設定できること。
	2	職員向けの「おしらせ・イベント情報」表示ができること。「おしらせ・イベント情報」は任意、かつ、複数の設定、表示が可能であること。
	3	業務ホーム画面に「当日の利用状況」表示ができること。
貸出	1	カウンターにおいて利用者に資料の貸出サービスを行い、個人貸出・団体貸出・相互貸借・館内閲覧に対応できること。
	2	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	3	利用者コードと資料コードのバーコード走査のみで処理が可能なこと。
	4	バーコード走査により、「貸出確定」「貸出画面/返却画面切替」ができること。
	5	利用者カードを忘れた利用者の場合、貸出画面内で利用者検索し利用者特定～貸出処理が可能なこと。
	6	利用者カードを読み込んだ利用者について、詳細情報表示や登録内容の更新が可能なこと。
	7	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理が実行できること。
	8	館毎かつ利用者資格毎に貸出規則 (貸出日数・延期日数・延期回数・督促警告回数・貸出冊数・合計貸出冊数) 設定ができること。さらに、貸出日数・延期日数・貸出冊数は資料種別毎にも設定できること。主な貸出規則毎の現在貸出数が表示できること。
	9	延滞利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること (確認せず貸出させないこともできること)。
	10	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。 また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること。
	11	利用者に対する日本語コメント (忘れ物、落し物、その他の案内等) 通知ができること。
	12	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1利用者につき無制限であること。 また、1回表示後に自動消去されるコメントも登録できること。
	13	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1資料につき無制限であること。
	14	プライバシー保護のため書名の表示・非表示を予め設定できること。非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。
	15	プライバシー保護のため利用者氏名・督促日・督促回数・仮返却冊数の表示・非表示を予め設定できること。 非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。
	16	未登録の利用者や資料でも登録することなく、すぐに貸出できること。後から登録し貸出情報と紐づけできること。
	17	貸出冊数オーバー・期限切れ利用者・督促利用者・予約有り利用者・無効利用者・コメント有り等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
	18	無効資料・除籍資料・不明資料・予約資料・持禁資料・仮登録資料を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
	19	相互貸借資料を貸し出す際、利用者の返却予定日と相互貸借の返還期限日と比較し、返還期限日を超過する場合は貸出を行うかどうかを判断できること(確認せず貸出させないこともできること)。
	20	貸出画面上で、利用者の現在貸出中・予約中資料一覧を表示できること(10件以上/画面)。
	21	貸出中(状況)一覧画面で資料状態(「予約あり」や「延滞」等)の色分け表示ができること。 また、表示文字色と背景色の変更を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	22	貸出中の資料を選択指定することで貸出期間の延期ができること。
	23	特定の資料区分の資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	24	延期回数が貸出規則の回数を超過したり予約資料の時は自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知し延期の可否を判断できること。延期時に当初の貸出日を変更せず保持すること。
	25	貸出延期処理時、貸出統計にカウントする/しないが設定で選択できること。
	26	貸出中資料の資料コードを再走査することで継続貸出ができること。
	27	継続貸出処理時、回数をカウントして継続貸出処理を制限する/しないが設定で選択できること。
	28	休館日設定により、返却予定日をカレンダー管理 (休館日を選択) し、また貸出画面での随時変更もできること。
	29	貸出を行うと、利用者氏名、貸出本、返却予定日、貸出中本、予約待人数が記入された貸出情報が印刷され、利用者へ渡すことができる機能を標準で有すること。自由なコメントも随時修正し、印刷できること。
	30	貸出票はページプリンタ・レシートプリンタに対応し、画面から出力先を随時切り替え可能であること。
	31	ワンタッチで本人も含め家族の貸出予約状況一覧が表示できること。
	32	複数の課題図書等の特定資料に予約をしても、その内1冊貸出すと他の特定の資料の予約も消し込みができること。

項目	No	機能説明
	33	その日1日の館毎の貸出冊数、貸出人数の概数を画面に表示できること。
	34	貸出資料一覧表示時、資料識別子(図書・雑誌・AV等)が表示され、何を何点借りているか表示できること。
	35	未返却資料を貸出すと、今までの貸出利用者が確認でき、同時にその自動返却処理が行われること。
	36	貸出処理完了前であれば、今貸出した資料の取消ができること。また、取消し時は統計データに反映されないこと。
	37	貸出画面から予約の取消ができること。
	38	貸出画面から紛失処理ができ、督促の対象から外すことができること。
	39	貸出画面から、紛失等による弁償処理が行え、紛失届の印刷ができること。
	40	返却処理漏れなどによりシステム上は貸出中(未返却資料)扱いだが、利用者からは返却済みとの申し出があった資料について、一時的に仮返却資料として貸出中資料から除外できること。また、督促対象からも除外できること。
	41	貸出画面から、利用者の仮返却管理中の資料明細を確認できること。
	42	仮返却資料のバーコードを走査した時、自動で仮返却状態を解除して貸出すこともできること。
	43	予約していた資料を貸出すと、予約データは消去されること。また、家族が予約した資料を貸出しても、予約データの消去ができること。
	44	家族が予約した資料を貸出する際に、予約を解除して貸出するか、予約を解除せず貸出するか、選択できること。
	45	貸出中資料の返却予定日を変更できること
	46	貸出状況一覧で、資料詳細画面へ遷移し、資料の最終返却者が確認できること。
	47	予約資料一覧からレシート印刷ができること。
	48	予約レシートに予約メモが印刷できること。
	49	予約資料一覧で、予約受取館が確認できること。確保資料は確保館が確認できること。
	50	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報や予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。
	51	貸出完了せずに離席した時、一定時間経過後、貸出完了と利用者情報の画面消去が自動でできること。
	52	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	53	予約資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	54	利用者毎に利用者・資料の各種メッセージを履歴表示可能なこと。
	55	付録付資料が入力された場合にアラート表示が可能なこと。
返却	1	返却資料のバーコード走査だけで返却が完了できること。
	2	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	3	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	4	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理が実行ができること。
	5	書名の表示・非表示を予め設定できること。(プライバシー保護のため)。また、非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。
	6	プライバシー保護のため利用者氏名・督促日・督促回数・仮返却冊数の表示・非表示を予め設定できること。 また、非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。
	7	返却画面から、利用者の仮返却管理の中資料明細を確認できること。
	8	利用者に対する日本語コメント(忘れ物、落し物、その他の案内等)通知ができること。
	9	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1利用者につき無制限であること。 また、1回表示後に自動消去されるコメントも登録できること。
	10	資料についての日本語コメント(付録あり、汚れあり等)通知ができること。
	11	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1資料につき無制限であること。
	12	無効資料・除籍資料・不明資料・予約資料・仮登録資料・未貸出・団体利用者貸出資料・BM貸出資料・相互貸借資料等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
	13	無効(不明・紛失)となっている資料の返却を行うと、設定により、自動的に無効を解除することもできること。
	14	仮返却資料のバーコードを走査した時、自動で仮返却状態を解除することもできること。
	15	新刊コーナーの資料のバーコードを走査した時、自動で本来の配架場所に変更できること。
	16	特定場所の資料バーコードを走査した時、自動で設定した場所に変更できること。
	17	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。
	18	返却資料のバーコード走査後、貸出画面への展開は次に貸出を行う利用者カードを走査することにより遷移できること。 また、バーコードリーダだけで、「貸出⇒返却画面切替え」「貸出・返却確定」ができること。
	19	予約されていた資料が返却されると、予約対象利用者の情報を自動的に印刷できること。(印刷可否の設定ができること) プリンタはレシートプリンタにも対応でき、印刷プリンタは任意に設定が可能なこと。
	20	予約レシートに予約メモが印刷できること。
	21	希望者には返却証明レシートの印刷ができること。
	22	ブックポストへの大量の返却本を連続で返却する画面を用意していること。
	23	用途に合わせて下記3種類の返却モードが用意されていること。また処理画面に応じてワンタッチでモード切替が可能なこと。 ・通常返却(開館中利用者と対面し返却する場合のモードで未返却資料をタブ切替ですぐに表示できること) ・ポスト返却(ブックポストへの大量返却時等、返却利用者チェックを行わず連続で返却が行え、返却資料が一覧画面に蓄積できること) ・履歴参照返却(通常返却の機能に加え、ポスト返却のように返却資料が一覧画面に蓄積できること)
	24	返却画面で貸出延期ができること。
	25	貸出延期処理時、貸出数をカウントする/しないが設定で選択できること。
	26	ワンタッチで本人も含め家族の貸出予約状況一覧が表示できること。
	27	基本的にプライバシー保護のため返却完了時、貸出データは消去されること。ただし、設定によって当日の返却履歴を保存し、返却完了後でも管理上返却した資料を誰が借りていたか確認することもできること。 返却履歴を保存する設定の場合は、ボタンで任意に履歴消去できること。また、業務メニュー終了時に自動消去もできること。
	28	貸出資料一覧表示時、資料識別子(図書・雑誌・AV等)が表示され、何を何点借りているかの識別ができること。
	29	その日1日の館毎の返却冊数、返却人数を画面に表示できること。(概数を表示ができること)
	30	本籍館への配送、予約資料の配送管理ができること。
	31	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。
	32	返却画面表示のまま離席した時、一定時間経過後利用者状況の画面消去が自動でできること。
	33	返却状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	34	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	35	予約資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	36	利用者毎に利用者・資料の各種メッセージを履歴表示可能なこと。
	37	付録付資料が入力された場合にアラート表示が可能なこと。
	38	返却履歴は1日分の履歴を保持し、自端末のみ/自端末全全てで表示切替が可能なこと。
	39	タグ管理されている資料のバーコードを走査した時、操作員に通知できること。
	40	タグ管理されている資料は、指定期間中は指定された館へ自動配送されること。

項目	No	機能説明
督促	1	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	2	一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により、督促ハガキの印刷ができること。 その際、まず、該当利用者の一覧が画面に表示でき、ハガキ印刷をする利用者を任意に選択できること。 また、設定で督促回数をカウントアップでき、貸出画面で確認できること。
	3	一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により未返却者一覧表示後、メールで督促の通知ができること。また、利用者毎にメール通知可否設定ができること。
	4	未返却者一覧表示後、延滞資料の在架チェックを行うための帳票が出力できること。
	5	督促対象資料中の予約資料のみ抽出し、督促ハガキを印刷、および、メール通知ができること。
	6	返却予定日の範囲指定により、未返却者、未返却資料一覧の印刷ができること。
	7	メール発信記録参照画面より、督促メールを発信した、利用者コード、利用者名、メール発信日、時刻、対象資料の資料コードが参照できること。
	8	督促通知メール送信時、インターバル(件数、送信間隔)を指定できること。
利用者検索	1	利用者氏名(カナ、日本語、全半角の混在が可能)、電話番号、利用者コード、利用者区分、住所コード、生年月日、E-mailアドレスからの検索ができること。電話番号はハイフン抜きでも検索でき、また市外局番なしでも検索できること。
	2	利用者データ検索において生年月日、住所の郵便番号、登録館、無効理由区分で絞り込みができること。
	3	利用者検索一覧では、利用者の利用者番号、利用者名、性別、利用者区分、電話番号、住所、生年月日、貸出数、予約数が確認できること。
	4	登録利用者の一覧画面表示できること。また、印刷および、各種OASソフト(Excel等)で読み込み可能な形式(CSV形式)で出力できること。
	5	登録利用者の一覧出力では、管理者権限による出力制御ができること。
	6	利用者の詳細情報が表示できること。氏名、電話番号、生年月日、年齢、住所、最終利用日、最終督促日、督促累積回数、有効期限、予約順位、予約待ち順位、貸出資料一覧、予約資料一覧等が確認できること。また、印刷もできること。
	7	貸出状況一覧が表示できること。また、個人/家族、全館/自館をワンタッチで切り替えができること。
	8	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	9	貸出資料の不明/紛失/弁償処理/仮返却ができること。
	10	貸出資料の詳細情報が表示できること。(資料検索結果画面相当の情報)
	11	予約している資料一覧が表示できること。また、個人/家族の切り替えをワンタッチでできること。 更に、予約解除や予約資料の詳細情報も表示できること。
	12	予約している資料一覧では表示される情報全項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	13	コメント入力機能連携にて利用者に通知したいコメント情報を登録できること(コメント数は無制限)。また、修正、削除もできること。
	14	プライバシー保護のため利用者一覧及び詳細画面のままで離席した時、一定時間経過後、メニュー画面へ自動で戻ることができること。
利用者登録	1	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	2	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	3	新規利用者の登録、既存利用者の登録情報の修正、登録利用者の削除、利用者カード紛失時等の再交付処理ができること。
	4	利用者氏名は漢字を入れ、ワンタッチでの自動ヨミ振りができること。
	5	利用者氏名のヨミは漢字入力した通りに自動でヨミ振りもできること。
	6	家族の一人目を登録すると、以降は電話番号入力後ワンタッチで利用者データを複写し、氏名、生年月日、性別等を直すだけの連続登録ができること。この時入力する電話番号はハイフン、括弧の有り、無しに関わらず複写できること。
	7	利用者カードの再発行ができること。その場合、貸出・予約情報は引き継がれること。
	8	利用者氏名・住所等を全半角混在で登録できること。生年月日を西暦で登録することもできること。
	9	住所ファイルを持ち、町丁コードにより住所登録ができること。また、本辞書は住所だけでなく、クラス名、部署名等、自由に使用できること。利用者登録時は町コード入力または、選択で住所、郵便番号(7桁対応)が自動的に入力できること。
	10	住所コード数が多い時等の入力負荷軽減のため、住所コードを大分類(大字等)と小分類(小字等)とで2段階入力ができること。また、郵便番号・住所名などの直接入力によるフィルター機能を有すること。
	11	利用者氏名ヨミ、電話番号、生年月日で二重登録利用者のチェックを自動的に行えること。
	12	利用者のE-mailアドレスやパスワード情報の登録ができること。パスワードは非表示で暗号化対応であること。
	13	利用者のE-mailアドレスやパスワードの変更履歴が参照できること。ただし、参照時は特定パスワード等の認証が必要であること。
	14	年齢は生年月日からシステムが判断し自動計算であること。年次処理等の処理は不要であること。
	15	家族共通の情報(電話番号、住所)は、家族の一人を修正することで、他の家族も一括更新できること。
	16	新規登録時、検索で未登録確認後、登録画面に検索条件を複写できること。
	17	郵便番号や住所名略称での住所検索ができること。
資料検索	1	貸出や返却でアラーム通知するコメント情報の追加、修正、削除ができること。 また、1利用者につき設定できるコメント数は無制限とし、フリーワードの入力もできること。
	2	利用者パスワードの保守権限をログインID毎に設定できること。
	3	初期パスワードの自動発行機能、パスワード発行のメール通知/レシートへの印刷ができること。
	4	初期パスワードの自動発行時、パスワードの有効期限が設定できること。
	5	パスワード通知方法の初期値を、新規登録時と修正時で別に設定できること。
	6	利用者が自身の多要素認証情報を紛失した際、職員が認証情報をクリアし、利用者が認証情報を再登録できる状態に戻せること。
	7	有効期限や最終利用日等の条件に該当する利用者を抽出し、無効区分、利用者資格区分等の情報を一括で更新できること。
	8	生年月日や有効期限等の条件に該当する利用者を抽出し、コメント情報を一括で更新できること。
	9	任意の無効日付、無効区分を指定し、一括してデータ削除できること。あくまで、任意処理であり、年度末等に自動で削除されないこと。
	10	利用者毎にメール発信履歴が参照できること。各種メール内容(督促・予約連絡等)とその発信日時が確認できること。
資料検索	1	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	2	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	3	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目・タグ名等で資料検索できること。 書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。
	4	各種の可変長マークデータから漏れなく検索ができること。(マークデータの全てを検索対象可能とする)
	5	AND、OR、NOTを使用し、項目間の複合高速検索ができること。
	6	また、検索履歴からその時の検索条件を復元でき、条件を付加することでより詳細な検索ができること。
	7	項目により、前方一致、完全一致および中間一致(分かち項目)、後方一致で認識し、検索ができること。
	8	各種検索キーをカナ・漢字・アルファベットの全半角両方で指定して検索処理ができること。
	9	うろ覚えのキーワードを過去に登録された文字の中から探し出し、入力する手助けができること。
	10	検索項目を特定せず、キーワードのみの入力でも検索できること。
	11	キーワード検索では、複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できること。

項目	No	機能説明
	12	特定書誌の資料の所蔵資料・未所蔵資料・発注中資料等の状態が検索結果から把握でき、また、書誌の詳細情報を目録カード形式で表示できること。
	13	検索結果から所蔵の状態(不明資料・除籍・貸出中等)の把握ができること。 また、複本に対応していること。(検索結果の表示形式を「書誌」or「所蔵」単位で切替できること)
	14	検索結果は、利用可能/貸出中/貸出不可/発注あり/除籍/相互貸借資料/未所蔵により色を分けて分かりやすく表示できること。
	15	前項の表示色は任意に変更が可能なこと。
	16	指示により、検索結果の印刷ができること。
	17	印刷のほか、CSVファイルで保存やエクセルファイルで保存も可能なこと。
	18	検索中断件数を設定できること。また、設定によって最小入力文字数を任意に指定でき、検索実行時にチェックされ、操作員の判断により検索続行するか中止するかを選択できること。
	19	検索処理中断ボタン操作でも中断可能なこと。
	20	対象館を全館、自館限定、または、任意に複数館指定して検索でき、検索結果も、本が今、どの館のどこでどのような状態になっているかを一目瞭然に表示できること。
	21	所蔵場所区分、請求記号等の所蔵(ローカル)項目を一次キーとして検索ができること。また、書誌項目との複合検索もできること。
	22	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して表示できること。
	23	資料区分をグループ化し、二次検索条件として指定できること。(一般書と児童書を分けて検索する事が可能。)
	24	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。 同様に大文字、小文字(例「や」と「ヤ」、「A」と「a」等)どちらで入力しても検索できること。 さらに、音が同じもの(例「バ」と「ヴァ」、「を」と「お」、「は」と「わ」、「じ」と「ぢ」等)も、どちらで入力しても検索できること。
	25	上記の規則を任意設定できること。
	26	資料検索結果一覧の初期表示順の設定ができること。
	27	資料詳細画面にて貸出中の資料表示時、ワンタッチで利用者詳細画面へ展開し、利用者氏名、電話番号が確認できること。
	28	資料一覧画面または、資料詳細画面から、書誌登録、所蔵登録、予約、発注へ展開できること。
	29	検索項目として使用できる項目の任意設定ができること。図書・雑誌・AV等の種別毎に設定できること。
	30	検索結果一覧として表示する項目の任意設定ができること。
	31	検索結果一覧は、項目の掛け合わせによる並び替えが可能なこと。
	32	種別(図書・雑誌・AV等)の複数指定による横断検索ができること。
	33	画面から典拠対象の追加・修正・削除ができること。また、外部人名典拠ファイルからの一括登録もできること。
	34	本に印刷されているISBNバーコードの読み取り検索ができること。
	35	発注中等の蔵書していない(未所蔵)書誌のみデータの検索ができること。
	36	雑誌のタイトル情報のみを対象として検索ができること。また、検索値未入力でも全タイトル検索ができること。
	37	検索結果で利用状況一覧が表示できること。また、そこで紛失/不明/弁償処理ができること。
	38	検索結果で予約状況一覧が表示できること。また、そこで予約解除ができること。
	39	資料詳細で所蔵毎の最終利用者を表示できること。(返却後の資料等に物がはさまっていた場合等の対応) プライバシーにも考慮し、表示しないこともできること。資料別利用者リストの表示または非表示の選択ができること。
	40	検索結果一覧から特定の資料を選択し、その資料の検索キーワード(著者名等)で再検索ができること。
	41	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。
	42	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ(画像)情報を表示できること。
	43	検索結果より、書庫出納票(レシート)が印刷できること。
	44	内容注記や一般注記のように、分かち書きされていない書誌事項の、文中の文言について検索できること。
	45	資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	46	利用状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	47	予約状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	48	国立国会図書館が保有する書誌情報と横断検索が可能なこと
	49	国立国会図書館が保有する書誌情報の検索結果がダウンロード可能なこと
予約	1	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	2	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	3	館毎かつ利用者資格毎に予約規則(予約有効日数・合計予約件数)設定ができること。 さらに予約件数に関しては窓口・館内OPAC・WebOPAC毎に設定ができること。
	4	予約本の現在の状態(予約中、予約棚、配送中)の管理ができること。
	5	各処理ボタンに割り当てられたバーコードの走査により、画面上の各種処理選択ができること。
	6	書誌予約、所蔵予約いずれにも対応できること。予約時にどちらの方法で予約するかを選択できること。 書誌予約：複本がある場合、全ての複本に予約がかかり、どれか一冊が返却された時点で予約通知ができること。 所蔵予約：複本がある場合でも、所蔵を特定して予約をかけ、特定の所蔵が返却された時点でのみ予約通知ができること。
	7	予約した時間で予約順位を決めること。また、予約順位の変更もできること。順位変更しても予約入力日時は保持されること。
	8	予約資料の提供予定日を表示できること
	9	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	10	相互貸借資料(借受資料及び貸出中資料)への予約をチェックし、メッセージを表示できること。 また、返還予定日が超過している相互貸借資料に対する予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
	11	延滞利用者に対して、予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
	12	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。 また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して予約を行うかどうかを判断できること。 確認せずに予約させないこともできること。
	13	予約メモ入力ができること。
	14	予約件数の制限がかかること。処理館、予約種別(窓口予約、インターネット予約等)、利用者資格、資料種別(図書、雑誌等)毎の件数制限ができること。また、予約種別合計、資料種別合計での予約件数制限もできること。
	15	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	16	予約入力の件数統計(予約区分：窓口、OPAC、WebOPACと資料種別ごと)が出力できること。
	17	任意に予約取消ができること。
	18	予約取消時、予約取消理由を登録できること。
	19	予約処理で資料の検索、利用者の検索処理ができること。
	20	予約資料情報の一覧表が出力できること。
	21	館を認識した検索機能と連動し、自館の本に限定、または全館の本へ拡張して予約をかけることができ、貸出・返却業務とも完全連係ができること。
	22	資料一覧画面と連携し、資料一覧画面で複数の資料を選択し、一括予約ができること。また、課題図書等のグループ単位での予約もできること。

項目	No	機能説明
	23	予約資料一覧画面から、レシート印刷ができること。
	24	返却や、受入等により、利用可能となった利用者を抽出し、予約連絡一覧を表示できること。また、連絡済み/未連絡/不在の管理もできること。
	25	予約確保日(予約棚日)で抽出し、予約連絡バガキを印刷できること。
	26	予約確保日(予約棚日)で抽出し、メールで予約連絡を通知できること。また、利用者毎にメール通知可否設定ができること。
	27	予約連絡メール送信時、インターバル(件数、送信間隔)を指定できること。また、メール送信と同時に連絡状態を更新できること。
	28	予約棚(予約資料の確保状態)を変更できること。
	29	予約毎に受取希望日を指定できること。期限が過ぎた予約は自動的に取消するのではなく、操作員の判断で取消できること。
	30	予約資料の詳細表示ができること。(検索相当の表示ができること)
	31	WebOPACや館内OPACからの予約依頼状況の確認ができること。予約依頼状況より、職員判断にて本予約の可否ができること。また、予約可否結果は予約者に対してメールで自動通知もできること。利用者毎にメール通知可否設定もできること。
	32	複数の資料が全てそろった時に貸出可能とする、そらい待ち予約ができること。
	33	複数の資料を予約し、割当順位をつけ順位順に貸出可能にする順番待ち予約ができること。
	34	予約対象館を本館または現在館から選択できること。また、対象館をグループ館(グループ館:Aグループ館はA1館とA2館等)毎の予約ができること。(グループ館毎にグループ化されている館名の表示ができること。)
	35	上下巻等の複数資料に予約を行い、資料が全てそろった時に貸出可能となるセット予約ができること。
	36	予約利用者の受取希望館の選択ができること。また、BMについてはステーションの選択ができること。
	37	バーコードの走査だけで、予約確保の取消が可能なこと。
	38	予約連絡メールは、自動発信もできること。
	39	予約画面でリクエスト用紙の印刷ができること。
	40	連絡不要の予約を確保時、自動で連絡済み状態に更新できること。
利用者開放端末(館内OPAC 全般)		
	1	最新のMicrosoft Edge(IEモード)またはGoogleChrome上で動作可能であること。
	2	セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン (applet) やクライアントで動作する仕組み (JWS) などではないこと。
	3	Microsoft Edge(IEモード)またはGoogleChromeのみをアップデートすれば、セキュリティ対策が実施できる仕組みとすること。
	4	セキュリティに配慮し、クライアントにjavaをインストールしなくても動作すること。
	5	メール送信機能は、セキュリティに配慮し、SMTPSに対応していること。
	6	画面はワイドディスプレイにも対応していること
	7	書名、著者名等の検索キーワードをタッチスクリーン操作で入力し、資料の検索ができること。
	8	キーボードレス(タッチスクリーン)操作で複合キー検索により、資料の検索ができること。
	9	キーボードによる検索もできること。また、キーボード入力時はカナ漢字混在による検索ができること。
	10	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。 書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。
	11	ひらがなカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。 同様に大文字、小文字(例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等)どちらで入力しても検索できること。 さらに、音が同じもの(例『ハ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等)も、どちらで入力しても検索できること。
	12	検索中断件数の設定ができること。
	13	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧の表示ができること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示ができること。
	14	検索結果詳細として表示する項目の任意設定ができること。
	15	Googleブックと連携し、書影の表示が行えること。
	16	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ(画像)情報を表示できること。
	17	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。
	18	詳細画面から予約申請ができること。
	19	予約件数の制限がかかること。処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。
	20	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	21	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。
	22	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。
	23	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	24	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者資格毎・利用者単位に初期値設定できること。
	25	予約申込時、申込内容の確認画面を表示できること。
	26	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。
	27	予約完了時、利用者控えの出力ができること。
	28	おすすめの本をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。また、テーマは「検索キーワード指定」「バーコード指定」のどちらでも可能なこと。
	29	タグ管理機能でタグ付けした資料を一覧表示できること。
	30	一定時間経過後、自動的にトップ画面に戻れること。
	31	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせ表示ができること。
	32	OPAC各機能の利用回数統計が出力できること。
	33	画面遷移をバンクズリストとして表示し、バンクズ指定にて画面遷移できること。
	34	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。
	35	予約申込時に指定した連絡方法・受取館・受取ステーションを次回予約申込時に表示できること。
	36	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。
	37	典拠を参照した詳細検索が可能であること。
	38	簡易読書通帳用として貸出シールの印刷が可能なこと。
	39	テンプレートを選択して、デザインを変更する機能を有すること
	40	利用者のパスワードの桁数・文字種の制限が可能なこと。
セルフ貸出機能	1	専用機ではなく通常のパソコン端末で利用者自身が貸出・返却できること。
	2	画面はワイドディスプレイにも対応していること
	3	館内OPACと切替運用ができること。
	4	貸出レシートの印刷ができること。
図書管理	1	各種可変長マークデータは完全に取り込むことができること。(完全可変長項目数対応)
	2	複本のデータ管理ができること。
	3	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。
	4	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力ができること。
	5	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。

項目	No	機能説明
	6	書名・著者名等にて入力した漢字項目から自動的にヨミ振り分かちがができること。
	7	書名などカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りができること。
	8	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
	9	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。
	10	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。
	11	複数行にまたがったデータを漏れなく入力することができること。
	12	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。
	13	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
	14	TRCマーク：内容細目ファイル、学習件名ファイルを一括登録でき、検索に活用できること。
	15	TRCマーク：内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録できること。
	16	TRCマーク：目次ファイルを一括登録できること。
	17	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
	18	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。 それぞれの入力文字属性に応じIMEのON/OFF制御ができること。
雑誌管理	1	タイトル書誌一覧機能により入力が簡略化でき、タイトル/巻号の書誌連携が容易であること。 雑誌タイトル(タイトル書誌)は、雑誌コードによる呼出しができること。
	2	タイトルと各巻情報を分けて管理し、検索できること。
	3	雑誌タイトルが改題された場合、変遷前タイトル書誌と変遷後タイトル書誌の関連付けができ、 検索でどちらかのタイトルでヒットしても関連タイトル書誌情報が参照できること。 また、複数のタイトル書誌の合併や1つのタイトル書誌からの派生/分離にも対応できること。
	4	タイトル一覧画面より巻号(バックナンバー)一覧画面を表示できること。
	5	各種情報を可変長にて登録し、検索できること。
	6	最新巻号の登録時に、直前号の貸出禁止が解除され、最新号を自動的に貸出禁止にできること。 また、登録時に貸出禁止期限を予め設定もできること。
	7	最新巻号の登録時に、直前号の巻号情報、およびローカル情報を初期表示できること。
	8	巻号を「巻/号/通巻」で管理する場合、前号の巻号書誌情報より、自動で巻号予測し初期表示できること。
	9	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、 そこから選択入力が可能であること。
	10	タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りができること。
	11	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
	12	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。
	13	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。
	14	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列化する為の序数化の自動付与ができること。
	15	雑誌のJANコードを読み取って受入ができること。
	16	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面で、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
	17	内容記事入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。
	18	TRC社の雑誌MARC/Tの取り込みができること。
蔵書管理	1	館コードにより分館の管理ができること。
	2	持禁区分の設定・変更処理が連続でできること。
	3	資料の除籍・復籍処理が連続でできること。
	4	該当資料が手元に無い場合でも検索から該当資料を発見し、ローカル情報の変更処理ができること。
	5	コード値(所蔵場所コード等)入力時、コード一覧を表示し、選択入力できること。 また、キーボードより直接コード値入力もできること。コード選択時は名称にて一覧から選択できること。
	6	バーコード入力により、所蔵場所コード等、区分・コード値変更を連続でできること。 また、変更履歴の画面表示、およびバックアップをダウンロードし、変更内容の保存/復元ができること。
	7	ハンディーターミナルで読み込んだバーコード情報より、所蔵場所コード等、各区分・コード値の一括変更ができること。
	8	区分値、貸出回数、最終貸出日等を抽出条件とし、所蔵場所コード等、各種ローカル項目の一括変更ができること。 例：公開配架資料で最終貸出日が特定日以前の資料を、書庫配架に変更する。
	9	マークデータと装備されたバーコードに誤りがあった場合など、書誌(タイトル)情報とローカル情報がミスマッチの時、 バーコードの貼り替えをせず、データ側を組替えて対応することができること。
	10	装備されているバーコードが汚れ等で読取できなくなり、別な番号でバーコードを貼り替える場合、 各種データのバーコード番号も同期をとって変更できること。
	11	同一書誌がある場合など、特定書誌の所蔵、貸出、予約、リクエスト、相互貸借情報を別書誌に付け替えることができること。
	12	複数タイトルの資料(主に雑誌)を製本(合本)することができること。一度製本したデータを元にばらすこともできること。 検索で製本された元の資料情報も参照できること。
	13	館内OPAC及びインターネット向けサービス(WebOPAC)で紹介する「おすすめの本」のバーコード指定を、 オンライン登録(バーコード入力)/HHTからの一括登録のどちらでも可能なこと。
	14	「おすすめの本」のバーコード指定資料は、一覧印刷/CSVファイル出力が可能なこと。
	15	資料に付録の有無を登録することができること。
	16	資料の除籍・削除処理時、廃棄予定日以前の場合にメッセージ表示が可能なこと。
	17	資料の除籍・削除処理時、他に利用可能な複本が無い場合にメッセージ表示が可能なこと。
	18	コーナー本や事情本などのタグを資料に登録し管理できること。
	19	資料の除籍・削除処理時、タグ・レファレンス参考資料がある場合にメッセージ表示が可能なこと。
蔵書点検	1	蔵書点検前処理等の事前処理無しで蔵書点検が開始できること。
	2	オンライン、オフラインの両方で蔵書点検ができること。
	3	ハンディーターミナルでバーコードを入力し、棚の本の在庫点検ができること。 また、不明・除籍・未登録・貸出中未返却(自動的に返却処理される)・配架間違いの資料のチェックリストを出力できること。
	4	蔵書のバーコードの未入力(点検もれ)の一覧が印刷できること。点検もれバーコードのみ入力/累積し、最終的に不明資料を確認できること。
	5	蔵書点検の結果、不明資料一覧を印刷できること。
	6	一定(任意指定可)回数以上の不明資料を一括で除籍に変更できること。なお、除籍資料は任意に復籍もできること。
	7	各館(及び場所)毎に蔵書点検ができること。
選書	1	MarcNo/ISBN/資料コードをバーコード走査により、選書対象の資料を特定し選書ができること。
	2	資料検索との連携により選書対象の資料を特定し選書作業ができること。

項目	No	機能説明
	3	選書時は、選書対象の資料情報に加え、資料に紐づく発注数、複本数、予約数を確認できること。 また、各件数の詳細は一覧にて確認ができること。
	4	選書データの修正ができること。
	5	選書データの削除ができること。
	6	TRCマーク：選書時にTRCへの注文情報の指定が可能であること。
	8	選書時にリクエスト情報の登録ができること。登録されたリクエスト情報は、発注処理後に対象の発注情報とリンクされること。
	9	選書状況を通覧して確認することができること。また、選書状況を確認後、一括で発注処理ができること。
発注	1	同一書誌に対する二重発注のチェックができること。
	2	新刊案内内のバーコードを走査することにより発注できること。また、発注データを作成できること。
	3	雑誌等の逐次刊行物を年単位で一括発注できること。発注時、指定した刊行頻度情報(月刊等の刊行頻度や発売日または曜日等の情報)より、年間受入回数分の発注明細が表示できること。また、発注明細毎に発行予定日が自動計算され表示できること。
	4	発注の取消しができること。
	5	発注時処理から予算の差し引き処理が自動で行われること。
	6	発注中の本に対して予約できること。
	7	予約が登録されている発注の取消し処理をする際、メッセージ表示が可能なこと。
	8	発注資料のマーク番号を連続入力し、まとめて発注できること。
	9	発注画面で、複本等の所蔵状況一覧が表示できること。
	10	発注画面で、予約状況一覧が表示できること。
	11	発注画面で、発注状況一覧が表示できること。
	12	TRCマーク：TRC発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。
	13	TRCマーク：「週刊新刊全点案内」のバーコード（TRCNo）を走査し発注できること。
受入	1	発注情報を参照しながら、受入処理ができること。
	2	受入処理で予約本のチェックを行い、操作員に通知できること。予約棚確保もできること。
	3	受入行為から予算の差し引き処理が自動的に行われること。また、各種抽出マークやローカルマークによる一括受入時にも予算の差し引き処理ができること。
	4	雑誌等の年間一括発注(継続発注)本の受入で、該当する発行予定日の発注明細を指定して受入できること。 ここで受入後、発注明細上では「受入済」と表示し、未受入/受入済の管理ができること。また、欠号や増刊の管理もできること。
	5	TRC-Typeマーク：ローカル情報をマークデータより一括受入時に、対象の発注情報を参照できること。
	6	各種マークデータにより一括受入後、専用画面で検収処理ができること。 また、検収前の本は貸出不可とし、検収後に貸出可能とすることができること。
	7	現物受入の際には館、資料種別、請求記号等毎に設定されたローカル情報の規定値を表示できること。 また業務の再起動を行わなくても規定値の変更ができること。
予算	1	年度毎・月毎に予算額・発注額・受入額・予算残額・受入残額が管理できること。 入力は各区分を細かく設定して行い、表示は各区分を細かく、または全体表示ができること。
BM(移動図書館)	1	ハンディターミナルまたは、ノートブックパソコンによる移動図書館において、利用者への資料の貸出/返却サービスができること。
	2	ノートブックタイプでは、本館情報の一部(資料・利用者データ等)を搭載し、各種情報提供・チェックを行い、本館パソコンと同じ画面での貸出・返却・予約・利用者検索・利用者登録・資料検索ができること。
	3	長時間の停電などにより、カウンター用の端末機が使用できない場合でも、移動図書館用端末にて貸出/返却サービスができること。
	4	300ステーション以上のBMステーションに対応できること。
	5	ステーション毎の巡回予定日を管理できること。また、ステーション毎に巡回予定日を基準とした返却予定日を自動設定できること。
	6	本館情報の一部(資料・利用者データ等)を搭載し運用する方式と本館情報を搭載しなくても窓口業務が可能な方式の選択ができること。
	7	オンラインでのBM業務に対応できること。
オフライン処理	1	電源事故や回線事故に備え、サーバが稼働していない状況でもカウンタ業務ができること。
	2	事故からの回復後、上記で処理した内容の反映ができること。
インターネット向けサービス(WebOPAC PC/スマートフォン/タブレット 全般)		
	1	WWWサーバ経由でインターネット上のブラウザが端末から蔵書検索ができること。
	2	最新の複数のブラウザ（IE、Chromeなど）に対応すること。
	3	レスポンシブデザインに対応し、マルチデバイス（PC、タブレット、スマホ）において同等の機能と操作性を有すること。
	4	総務省が提唱するアクセシビリティの基準においてA以上とすること。
	5	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。 書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索できること。
	6	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。 同様に大文字、小文字（例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等）どちらで入力しても検索可能であること。 さらに、音が同じもの（例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等）も、どちらで入力しても検索可能であること。
	7	操作ガイドは大人用(漢字混じり)、子供用(ひらがな)、英文の3種類に対応できること。
	8	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせを任意の順で表示できること。
	9	各機能の利用回数統計が出力できること。
	10	検索項目を特定せず、検索語のみの入力でも検索できること。
	11	検索語のみ入力の検索機能を各図書館の公開Webサイトへ掲載できること。
	12	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できること。
	13	検索項目を指定してのキーワード検索ができること。
	14	全文検索ができること。
	15	著者名 = イケナシヨウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
	16	雑誌ジャンル(例：スポーツ、車、旅行、等)を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。
	17	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示すること。
	18	各種一覧の表示をタイル形式/一覧形式を選択して表示できること
	19	検索結果一覧を並び替えることができること。
	20	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
	21	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
	22	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
	23	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。
	24	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
	25	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
	26	Googleブックスとの連携が、サイト毎の設定画面から簡単に設定できること。
	27	Googleブックスと連携し、書影の表示が行えること。

項目	No	機能説明
	28	外部サイト(カーリル、Googleブックス)へのリンクを表示し、指定したリンク先の画面が表示できること。
	29	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
	30	詳細画面より、受け取り可能な予約受取館の表示ができること。
	31	詳細画面から予約申込ができること。
	32	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。
	33	予約件数の制限がかかること、処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。
	34	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	35	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。
	36	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。
	37	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	38	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者資格毎・利用者単位に初期値設定できること。
	39	予約申込時、申込内容の確認画面を表示すること。
	40	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。
	41	複数の資料を一括で予約する場合、グループ予約・セット予約(巻揃え、優先順)が選択できること。
	42	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
	43	利用者カード番号、パスワード、ワンタイムパスワードの多要素を使用したログインが可能なこと。
	44	利用者のパスワードの桁数・文字種の制限が可能なこと。
	45	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示されること。
	46	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数の表示ができること。
	47	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込みができること。この場合、延長回数や予約により延長可否のチェックができること。
	48	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	49	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	50	特定の資料区分の資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	51	予約中資料照会画面から、予約取消し申込みができること。
	52	予約を取り消した資料の表示ができること。
	53	利用者の予約受取資料を照会できること。
	54	利用者の督促連絡資料を照会できること。
	55	利用者の返却予定期限資料を照会できること。
	56	利用者の新着案内配信資料を照会できること。
	57	利用者へのお知らせを照会できること。
	58	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	59	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	60	メールアドレス変更では、変更確認URLをメール通知し、アクセスを行うことだけで変更完了できること。
	61	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。
	62	多要素認証機能の使用可否は、利用者の任意のタイミングで決定でき、使用する認証情報の追加/削除が可能なこと。
	63	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。
	64	典拠を参照した詳細検索が可能であること。
	65	簡易検索/詳細検索時、検索キーワードを途中まで入力するとキーワード候補が選択(サジェスト)できること。 また、表示されるサジェストキーワードは書誌情報から自動作成されること。
	66	予約を申し込みたい資料を、一時的に保存できること。(予約かご機能) また、保存した資料についてメモ/カテゴリを登録できること。
	67	設定により、予約かごを経由せず予約もできること。
	68	図書館のトップページに、SNS(Twitter, Facebook)で発信しているタイムラインなどを埋め込むことができること。
	69	利用者がパスワードを忘れた場合であっても、図書館への問い合わせをせずに利用者自身がパスワードを更新できる機能を提供していること。
	70	詳細検索では、著者名を参照した検索が行えること。
	71	詳細画面では、独自に登録した一次情報リンク情報が表示できること。
	72	外部サイト(カーリル、Googleブックス)へのリンクを表示し、指定してリンク先の画面が表示できること。
	73	蔵書にない資料のリクエストが行えること。
	74	利用者バーコードを表示し、利用券として使用できること。
帳票印刷	1	統計資料はExcelと連携し画面で確認でき、必要に応じてプリンタに印刷指示できること。 また、Excelで2次加工(グラフ作成等)や保存することができること。
	2	利用者・所蔵情報等、任意の条件によって抽出する機能があり、結果がCSV形式など加工可能なデータとして保存・印刷ができること。 CSVファイルは項目見出しつきで出力されること。
	3	日本図書館協会調査票に対する項目が出力できること。
	4	統計表(日報、月報、年報)について、ひとつの出力画面から帳票を出力できること。
	5	キハラ3段、埼玉福祉会1段の背ラベルが印刷できること。また、出口で印字レイアウトの調整や独自用紙への印字も可能なこと。
	6	特定の利用者資格の貸出、返却、予約を統計の集計から除外できること。
帳票種別	1	利用者一覧表
	2	利用者通知メッセージ一覧表
	3	多重登録者一覧表
	4	新着資料一覧表
	5	無効資料一覧表
	6	未利用資料一覧表
	7	図書原簿
	8	所蔵一覧
	9	図書一覧
	10	雑誌タイトル一覧表
	11	典拠一覧表
	12	貸出資料一覧
	13	仮返却資料一覧
	14	予約資料一覧表
	15	予約在架資料一覧表
	16	予約解除資料一覧表
	17	予約多数資料一覧表

項目	No	機能説明
	18	リクエスト処理一覧表
	19	リクエスト統計表
	20	借受予約資料一覧表
	21	リクエスト予約一覧
	22	発注一覧表
	23	発注短冊
	24	選定リスト
	25	自動発注リスト
	26	納入状況リスト
	27	時間帯別利用統計
	28	日別利用統計
	29	月別利用統計
	30	曜日別利用統計
	31	曜日別年齢別利用人数統計
	32	団体別利用者統計表
	33	曜日別時間別利用統計
	34	用途別件数集計表
	35	利用者管理総括表 2
	36	広域利用統計
	37	年齢 - 分類別貸出統計
	38	年齢 - 地区別貸出統計
	39	年齢 - 地区別貸出人数統計
	40	年齢 - 地区別実利用人数統計
	41	所蔵場所別貸出統計
	42	地区別資料区分別貸出統計
	43	利用者資格別資料区分別利用統計
	44	統計分類別所属別貸出統計
	45	統計分類別利用者資格別利用統計表
	46	統計分類別貸出実績表
	47	予算区分別利用統計
	48	資料区分 - ステーション別貸出統計
	49	年齢 - ステーション別貸出統計
	50	年齢 - ステーション別貸出人数統計
	51	資料区分 - ステーション別返却統計表
	52	年齢 - ステーション別返却統計表
	53	年齢 - ステーション別返却人数統計表
	54	ベストリーダ
	55	年齢性別毎ベストリーダ
	56	雑誌タイトル毎ベストリーダ
	57	ベストリクエスト
	58	多読者一覧
	59	分類別蔵書統計
	60	分類別蔵書統計表(リアルタイム)
	61	蔵書総括表
	62	除籍総括表 / 除籍内訳表
	63	地区 - 年齢別登録者統計
	64	蔵書集計表
	65	登録者集計表
	66	公共図書館調査票
	67	資料データリスト
	68	利用者データリスト
	69	OPAC利用件数統計用 (月報)
	70	OPAC利用件数統計用 (年報)
	71	OPAC利用件数統計用 (時間帯別)
	72	AVブース帳票
	73	貸借館別相互貸借統計
	74	分類別相互貸借統計
	75	相互貸借貸出タイトル一覧表
	76	相互貸借借受資料一覧表
	77	相互貸借申込書
	78	相互貸借返却状
	79	配送実績表
	80	レファレンス処理票
	81	アクセス記録参照
	82	蔵書点検エラーリスト
	83	不明候補資料一覧表
	84	不明資料一覧表
	85	除籍候補一覧表
	86	資料検索結果一覧表
	87	資料検索結果詳細
	88	資料バーコード一覧
	89	利用者バーコード一覧
	90	利用者カード
	91	貸出シート

項目	No	機能説明
	92	督促葉書／未返却者一覧
	93	予約連絡表
	94	予約連絡一覧
	95	配送票
	96	おすすめ資料一覧
	97	タグ一覧